

豊川市緑の基本計画2021→2030（案）の意見募集結果と市の考え方

提出された意見等の要旨、意見等に対する市の考え方は次のとおりです。

なお、単に賛否の結論だけを示した意見、第三者を誹謗中傷するもの等についてはその内容を公表せず、意見等に対する市の考え方は示しません。

項目：計画の策定に関すること

No.	意見等の要旨	市の考え方
1	本計画は、外部有識者などから構成する委員会により策定されたものか。また、その委員会が、2025年度に中間評価を行うのか。	学識経験者等で構成する策定委員会で策定しました。2025年度に予定している中間評価の実施方法については、現在のところ未定となっております。

項目：緑の分析・評価に関すること

No.	意見等の要旨	市の考え方
2	これまでの10年間の取り組みによる成果と評価はどうなっているか。	本編P61～63に、前計画の目標達成状況及び前計画の評価・分析について記載しています。

項目：緑の課題と計画の方向性に関すること

No.	意見等の要旨	市の考え方
3	緑地現況量の減少のみを課題としており、今後の計画との整合性が明確になっていない。	概要版では、緑の現況を大まかに説明するため、緑地現況量の減少のみ記載されております。計画書本編では、第3章（P50～68）で、「緑の量」を含め「環境保全」、「レクリエーション」、「防災」等の複数の視点から緑の現況を分析・評価し、課題の整理に繋げています。
4	緑の機能の一つに「環境保全」があることから、豊川市環境基本計画との整合性を取る必要があり、二酸化炭素の固定や貯蔵、化石燃料代替などを考えるべきである。	豊川市環境基本計画は本計画と関連性が高い計画であるため、目標水準や施策等に関して齟齬がないように整合をとっています。 二酸化炭素の固定や貯蔵については、緑の持つ環境保全の機能に含まれるものと認識しており、この観点から、現況の分析・評価・課題整理を行っております。

		<p>本計画で施策として定めるのは、緑の適正な管理に関する部分であり、石油代替エネルギーに関する内容にまで踏み込んでいませんが、今後施策を進める上で、参考にさせていただきます。</p>
5	<p>概要版 P4 の図について、類似した項目があるため、再検討をする必要があるのではないか。</p>	<p>緑の持つ機能を分類し、それぞれの機能に着目して課題を洗い出すという手順を踏んだため、必然的に課題の類似性が高くなっておりますが、これは、課題の詳細化であり、次の段階で個々の具体施策に繋げるために必要な内容であると考えております。</p>
6	<p>概要版 P4 の図について、緑の機能である「環境保全」や「防災」の観点が見当たらない。この図において、もっと前面に出すべきではないか。</p>	<p>緑の持つ「環境保全機能」とは、二酸化炭素の吸収、ヒートアイランド現象の緩和、生物の生息・生育地となる生態系の構築等であり、「災害防止機能」とは、延焼防止や雨水流出調整、災害時の避難場所や復旧活動拠点となる等の機能であると認識しています(本編 P3)。</p> <p>本計画では、これらの機能を踏まえ、第3章(P50～)において、緑の持つ「環境保全」、「レクリエーション」、「防災」等の機能別の視点から、現況の緑を評価・分析し、さらに「守る」、「創る」等4つの視点から課題を整理しています。</p> <p>概要版 P4 の図は、整理後の課題から基本方針に至る過程を図示したもので、環境保全や防災の観点を認識しづらいかもかもしれませんが、課題整理の前段において、これらの観点は内包されていると考えております。</p>
7	<p>「緑・自然の豊かさの市民満足度」や「公園の状況の市民満足度」を下げている要因(課題)は何か。単なる緑地現況量(3ページ参照)なのか。農用地減少の対応は管轄外であると考えられるが、森林減少には対策が打てるのではないか。</p>	<p>「緑・自然豊かさの市民満足度」の低下要因としては、森林や農地等の緑が量的に減少していることと、適正な管理が行われないことによる緑の質の低下が考えられます。</p> <p>「公園の状況の市民満足度」の低下要因としては、遊具等の公園施設の老朽化、公園整備状況の地域間格差、利用者ニーズの変化(便器の洋式化・防災機能の強化・多様なスポーツへの対</p>

		<p>応等の要望) に対する対応の遅れなどが考えられます。</p> <p>対策については、森林の保全及び農地の保全に関して、農務課を始めとする各関係部署による施策を位置づけており、すでに計画(案)に盛り込んでいるものと考えております。</p>
--	--	---

項目：緑化の目標水準に関すること

No.	意見等の要旨	市の考え方
8	<p>緑化の目標について、市域面積に対する緑の割合は「概ね現状維持」とする一方で、ワークショップを行って整備する公園緑地の数は、新規に9か所となっている。これは、市域が拡大することを見込んでいることが理由か。</p>	<p>市域が拡大することを見込んでいるわけではありません。ワークショップを行って整備する予定の公園は、土地区画整理地内の街区公園など小規模な公園です。これら9か所の公園面積の市域面積に対する割合は約0.01%であり、微小な増加であることから、「概ね現状維持」と記載しております。</p>

項目：緑の保全及び緑化の推進のための施策に関すること

No.	意見等の要旨	市の考え方
9	<p>最近宅地開発などで、40年前に比べると緑が相当減っている。市として市街化区域内の緑を減らさないという方針があるのであればもっとPRしてほしい。</p>	<p>市として、市街化区域内に限らず、市内全体の緑の保全が重要と考えています。今後、意識啓発のため、情報発信にも更に注力してまいります。</p>
10	<p>今後10年間のタイムスケジュールはどうなっているか。</p>	<p>施策については、担当部署で進捗管理を行います。公園緑地課では毎年、各施策の進捗状況を各部署に確認を行い、モニタリングします。</p>
11	<p>公園や河川の整備において発生する大量の木質系廃棄物の処分方法について、どのように考えているか。</p>	<p>市では、平成27・28年の2か年事業により、焼却量の削減と資源化率の向上を図るため、「豊川市資源化施設」を整備しました。資源化施設では、刈草・剪定枝の堆肥化処理、チップ化を行い、堆肥は配布を、チップについては販売を行っています。公園や河川で発生する木質系廃棄物は、資源化施設に搬入し、再資源化しております。</p>

<p>12</p>	<p>森林環境税を利用して、地域の木材を用いた健康遊具（器具）を設置すれば、高齢者や大人も公園に集まり、市民の健康維持にも役立つと思われる。</p>	<p>現在、市内の都市公園では、健康遊具（器具）が30基設置されており、そのうち半数程度が、構造部材に木材を使用しております。</p> <p>木製遊具は、素材に暖かみがあるだけでなく、木材利用の促進にも繋がるものと考えます。しかし、屋外では金属製に比べて劣化が早く、標準使用期間が鉄製に比べて短くなります。</p> <p>このため、木製遊具の設置に関しては、慎重に判断しているところですが、今後、森林環境譲与税につきましては、関係部署と連携しながら、有効的な用途を検討してまいります。</p>
<p>13</p>	<p>東海道五十三次御油・赤坂宿等の豊川市西部地区に点在する観光資源を連携・活用した「緑あふれる観光&健康づくりゾーン化構想」を提案する。</p>	<p>ご意見につきましては、観光振興や文化財活用に関する要素が含まれることから、関係部署と情報共有し、今後、施策を進める上で、参考にさせていただきます。</p>